

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価 (3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を進めるとともに、地域に開かれた教育課程を編成する。	①個別最適な学びと協働的な学びについて研究を進める中で、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践する。  ②学部間で協力し、校内での交流を計画的に行う。地域資源の活用や交流及び共同学習について、課題を整理する。	①-1 研究を通し、個別最適な学びや協働的な学びを支える授業システムについて検討し、教員間での共通理解を図る。  ①-2 日々の授業実践を一人一回発信するとともに(一人一授業)、取組みを通し、教員間での目的や役割等の共有を行い、チームでの授業改善につなげる。  ②各学部、校内外の交流及び共同学習について年間計画に位置付け、実践する。実施内容について校内で共有し、課題を整理する。	①-1 個別最適な学びや協働的な学びについて教職員全体で検討し、検討したことを実践に結び付けることができたか。  ①-2 一人一授業を行い、チームで協力して授業実践に取り組むことができたか。  ②校内外の交流及び共同学習について年間計画に位置付け、計画的に実施できたか。また、実施内容について、校内で共有し課題整理を行ったか。	①-1 教職員アンケートの結果、達成できた割合が82%である。保護者に「わかりやすい授業ができてきているか」とアンケートを取ったところ肯定的と捉えている割合が89%である。  ①-2 教職員アンケートの結果、達成できた割合が82%である。  ②教職員アンケートの結果、年間計画への位置づけを達成できた割合が78%、計画的実施について達成できた割合は85%である。	①-1 活動システムを取入れた振返りは、定着した。深掘りするための時間の確保と級外の職員も参加するなどの工夫が必要である。  ①-2 一人一授業への取組みが、学部毎にバラつきが見られた。目的と方法について、確認してから取組む必要がある。  ②今年度実施した交流及び共同学習については年度当初に年間計画に位置付けてから取組む。	①-1 活動システムを取入れた振返りは、定着した。深掘りするための時間の確保と級外の職員も参加するなどの工夫が必要である。  ①-2 一人一授業への取組みが、学部毎にバラつきが見られた。目的と方法について、確認してから取組む必要がある。  ②今年度実施した交流及び共同学習については年度当初に年間計画に位置付けてから取組む。	①-1 話し合いが一部だけの共有にならないように級外の職員も参加し、共通理解をもった授業実践につなげる。  ①-2 目的と方法について、確認してから取組む。  ②今年度実施した交流及び共同学習については、年度当初に年間計画に位置付けてから取組む。	
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	児童・生徒のニーズに応じて指導できるようにICT機器の活用等を含め、校内指導体制を整備し、指導・支援を行う。	①児童・生徒のニーズに応じて、チームで組織的・継続的な支援ができるようにする。  ②児童・生徒のニーズに応じて、タブレット等のICT機器の活用を進め、教育内容の充実を図る。	①ケース会を通して、専門職など校内関係者や関係機関と連携をして、実態把握と課題を整理し、支援策を検討する。  ②ICT機器に関する教員の知識技能を向上させるための研修会を行ったり、活用例を共有したりする。	①ケース会を実施し、チームで情報共有を行い、児童・生徒の指導・支援に反映させることができたか。  ②ICT機器に関する研修会を実施できたか。活用例を共有できたか。また、タブレット等、ICT機器の活用を進めることができたか。	①教職員アンケートの結果、達成できた割合が91%である。  ②教職員アンケートの結果、研修会について達成できた割合が85%、活用については、84%である。保護者アンケートでは、ICT機器の活用について肯定的ととらえられている割合が80%である。	①継続していくことで、教職員の資質向上につながる。  ②分教室はすでに活用できているが、本校については、電子黒板を活用した取組みを進める必要がある。  ③分教室はすでに進んでいるが、本校については、電子黒板を活用した取組みを進める必要がある。地元企業とタイアップして、取組んでもよいのではないか。	①校内関係者や関係機関と連携してケース会を実施することはできた。学部コーディネーターの育成が必要である。  ②研修会と活用については実施できている。電子黒板を活用した取組みを進める必要がある。	②4月当初にケース会の運営について研修会を行い、より良い支援策を生む効果的なケース会を目指す。  ②電子黒板を活用した取組みを学部間で共有し、児童・生徒のニーズに迫った支援を進める。	
3	進路指導・支援	保護者や関係機関と連携し、児童・生徒の将来に向けての進路指導・支援を充実させる。	①小学部の段階から教員間で共通認識をもって進路指導・支援を行う。  ②保護者の進路説明会や見学会等を通し保護者への情報提供を十分に行う。	①本校の進路指導・支援について、進路ガイドブック等を活用した研修等を通し、校内の理解を深める。また、移行支援に向けた必要な内容等を整理し、引継ぎや保護者への情報提供等丁寧に行う。  ②保護者が参加しやすいよう進路説明会等の日程調整を行い事業所見学の案内を計画的に行なう。保護者	①教員向けに進路ガイドブック等を活用した研修等を行うことができたか。各学部段階で進路について意識をし、指導に活かすことができたか。  ②説明会、見学会を通して情報提供を行うことができたか。	①教職員アンケートの結果、研修会について達成できた割合が79%、指導に活かした割合が84%である。  ②教職員アンケートの結果、達成できた割合が80%である。情報提供について、保護者アンケー	①高等部と比較すると小・中学部は達成率が低い。研修会を続ける必要性と日頃の授業が卒業後の生活との結びつきを考えながら取組む必要がある。  ②引続き取組む。	①高等部と比較すると小・中学部は達成率が低い。研修会を続ける必要性と日頃の授業が卒業後の生活との結びつきを考えながら取組む必要がある。  ②引続き取組む。	①研修会を実施することはできたが、日頃の授業が卒業後にどう結びついているのか考えながら取組む必要がある。  ②見学場所を増やしたことで、見学者数も増えた。引続き取組む必要がある。	①研修会の実施を継続しつつ、日頃の授業が卒業後にどう結びついているのか考え指導を振り返り取組む必要がある。  ②引続き取組む。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				の興味関心や困り感のリーサーチを行う等保護者への情報提供の内容を検討する。			トでは、肯定的にとらえている割合が88%である			
4	地域等との協働	共生社会の実現のためにセンター的機能の活用促進を図るとともに、地域と連携した活動を推進する。	①学部コーディネーターを活用し、地域のセンター的機能としての役割を果たす。  ②学校の様子を発信する等、地域の理解を深められるようにする。	①学部コーディネーターの活用方法等、地域の特別支援教育を推進するための校内組織体制について整理し、校内で共通理解を図る。  ②-1 ホームページの定期的な更新やオープンなかはらデー等の取組みを通し、地域の方が学校を知る機会を工夫する。  ②-2 学校運営協議会の中で、地域理解の促進や活用の方策等について検討する。	①学部コーディネーターの活用方法等、地域の特別支援教育を推進するための校内組織体制について整理し、教職員間で共通理解を図ることができたか。  ②-1 ホームページの定期的な更新やオープンなかはらデー等を通し、地域の方が学校について知る機会をもつことができたか。  ②-2 学校運営協議会で地域理解の促進や活用の方策について検討できたか。	①教職員アンケートの結果、全体でわからないと回答した割合が51%である。  ②-1 ホームページの定期的更新については、教職員の達成できた割合が61%、わからないが33%。保護者については肯定的な割合は75%。オープンなかはらデーの見学者数が227人から262人に増えた。  ②-2 話題にはした。自治会とつながることができ、高Bが自治会内の公園清掃をすることができた。	①巡回相談を含めた校外の支援の活動状況を知る機会を設定する必要がある。  ②-1 ホームページを更新したことを職員保護者に伝える必要がある。  ②-2 自治会内公園清掃が継続できるように取り組む。	①学部コーディネーターだけができるようになるのではなく、職員全員で取組むことで、学習の質の向上につながる。  ②-1 ホームページとは違って通信とでは、役割が違う。ホームページは、外部向け、はにっぴー通信は内部向けである。  ②-2 自治会内公園清掃は高評価。生徒さんの社会参加に協力できたことに喜びを感じている。生徒に感謝の気持ちを伝えられる機会を作ると良い。	①巡回相談を含めた校外の支援の活動状況を共有する機会を設定する。  ②-1 ホームページを定期的に更新するのは難しかった。また、更新したことを校内及び保護者にお知らせしていない。  ②-2 自治会内公園清掃ができるようになった。	①活動状況をお知らせするプリントの発行や報告会を行い、役割の共通理解を進める。  ②-1 オープンなかはらデーや公園清掃の様子を、地域に知ってもらう機会や周知を実施し、相互理解を進める。  ②-2 継続して取組むとともに、新しい地域との活動を検討する。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒の安心安全な教育環境を整備し、信頼される学校づくりを行う。	①職場環境の整備による教職員が働きやすい環境づくりに取り組む。  ②同僚性を発揮し、風通しのよい職場づくりを促進することで事故不祥事の防止の徹底を図る。  ③児童・生徒の人権を尊重し、安心安全で居心地の良い学校生活になるようにする。同僚性を発揮し、風通しのよい職場づくりを促進することで事故不祥事の防止の徹底を図る。	①-1 オフィス改善を通し、ペーパーレス化等業務の見直しや断捨離・整理整頓等に取り組む。  ①-2 各係で業務計画書(グループ業務引継ぎ表)を作成し、チームで協力して取り組むとともに、次年度に引き継ぐ。また、学校全体で共有できる工夫を図る。  ②定期的に不祥事防止会議を行い、教員の意識づけを促す。ヒヤリハット報告やアクシデント報告について教員間の情報共有を徹底する。  ③人権尊重を推進する一つとして「さん」付け呼称を徹底する。年度初めに「さん」付け呼称の意義や人権を尊重した関わりについて共通理解を図り、定期的に振り返りの機会をもつ。→「人権が尊重された授業づくり」のチェックリストを使用する。	①-1 ペーパーレス化や整理・整頓等職場環境の改善は図られたか。  ①-2 業務計画書(グループ業務引継ぎ表)を作成し、業務に取り組むことができたか。  ②定期的に不祥事防止会議を実施するとともに、ヒヤリハット報告やアクシデント報告への取組を通して、事故不祥事を起こすことなく学校運営ができたか。  ③学校全体で「さん」付け呼称と丁寧な関わりを確実にすることができたか。また、定期的に振り返りの機会を持ち、意識を高めることができたか。	①-1 教職員アンケートの結果、達成できた割合が78%である。  ①-2 教職員アンケートの結果、達成できた割合が78%である。  ②教職員アンケートの結果、達成できた割合が88%である。  ③教職員アンケートの結果、達成できた割合が96%である。保護者アンケートの結果、肯定的と捉えている割合が92%である。	①-1 ペーパーレス化できた事例や工夫などを学校全体で共有していく。  ①-2 業務を担当制で行うのではなく、係内の教員全員で行うものという意識に改めるためにも、継続が必要である。  ②継続して学校全体で取り組む必要がある。  ③継続して学校全体で取り組む必要がある。	①-1 ペーパーレス化できた事例や工夫などを学校全体で共有していく。  ①-2 業務を担当制で行うのではなく、係内の教員全員で行うものという意識に改めるためにも、継続が必要である。  ②継続して学校全体で取り組む必要がある。  ③継続して学校全体で取り組む必要がある。	①-1 改善は図られているが、継続して取り組む必要がある。  ①-2 業務計画書を意識しているのは係チーフだけになっていないか、年間の流れを係全体で意識していく必要がある。  ②継続して学校全体で取り組む必要がある。  ③継続して学校全体で取り組む必要がある。	①-1 ペーパーレス化できた事例や工夫などを学校全体で共有していく。  ①-2 自分の仕事だけに目を向けるのではなく、系の進捗状況がどうか意識を向ける。  ②継続してヒヤリハット報告の分析と共有を学校全体で取り組む必要がある。  ③継続して「さん」付け呼称を学校全体で取組み、お互いの人権を尊重した取組みを進める。